

蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

## 第6回 絵はがきでみる蟹江町



今回のおうちミュージアムでは、「<sup>え</sup>絵はがき」を<sup>しょうかい</sup>紹介します。むかしの絵はがきと今の<sup>しゃしん</sup>写真<sup>くら</sup>を比べながら、蟹江町の<sup>うつりかわり</sup>うつりかわりをみていきましょう。

上の絵はがきは、今から 70 年以上もむかしに作られたものです。この<sup>つつ</sup>包み紙<sup>かみ</sup>には、「<sup>すいごう</sup>水郷 蟹江<sup>えが</sup>絵はがき」という文字といっしょに、カニ、ドヒョウ（魚を入れるカゴ）、エリ（魚を<sup>つか</sup>捕まえるしかけ）、舟をこぐ人などが描かれています。

それでは、中の絵はがきを見てみましょう。

① かにえけいぶほはしゅつじよ (左上) と かにえちようやくば (右下)



昔) 右下の建物は、今から80年以上前の大正13年(1924年)に建てられた蟹江町役場です。木造2階建ての板張りで、パステルカラーでぬられていました。ちょっとオシャレな感じですね。建てられていた場所は、今の蟹江町産業文化会館のあたりでした。

左上の建物は、蟹江警部補派出所です。このころはまだ津島警察署の管轄でした。今の蟹江町消防署のある場所に建てられていました。



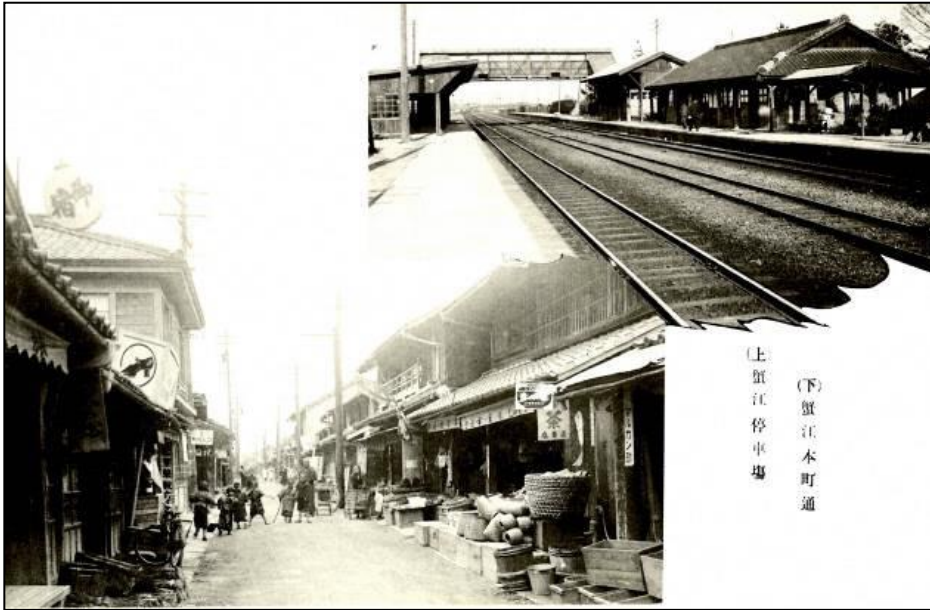
かにえけいさつじよ  
蟹江警察署



かにえちようやくば  
蟹江町役場

今) これらの建物は取り壊されて、別の場所で建て直されています。今の蟹江町役場は昭和51年(1976年)、蟹江警察署の建物は令和元年(2019年)に建てられました。どちらも鉄筋コンクリートで出来ています。むかしの建物と比べてみると、見た目や雰囲気はずいぶんちがいますね。

かにえていしゃば かにえほんまちどおり  
 ② 蟹江停車場 (上) と蟹江本町通 (下)



じょうききかんしゃ  
 蒸気機関車

昔) かにえていしゃば かにえほんまちどおり  
 蟹江停車場は、今のJR関西線・蟹江駅になります。むかしはでんしゃ  
 蒸気機関車が走っていました。

かにえほんまちどおり  
 蟹江本町通は、むかしの蟹江町のメインストリートです。道の両側にいろいろ  
 なお店が立ち並び、たくさんの品物を売っていました。靴屋やお茶屋の看板も  
 ありますね。このほか、宿屋 (今のホテル) やモノを運ぶ飛脚屋もあり、蟹江町  
 でいちばん栄えていたところでした。



かにえほんまちどおり  
 蟹江本町通

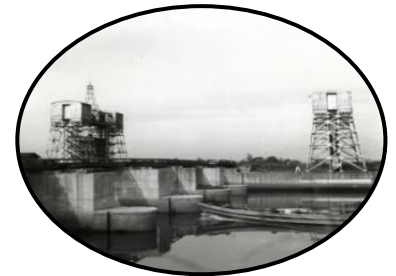
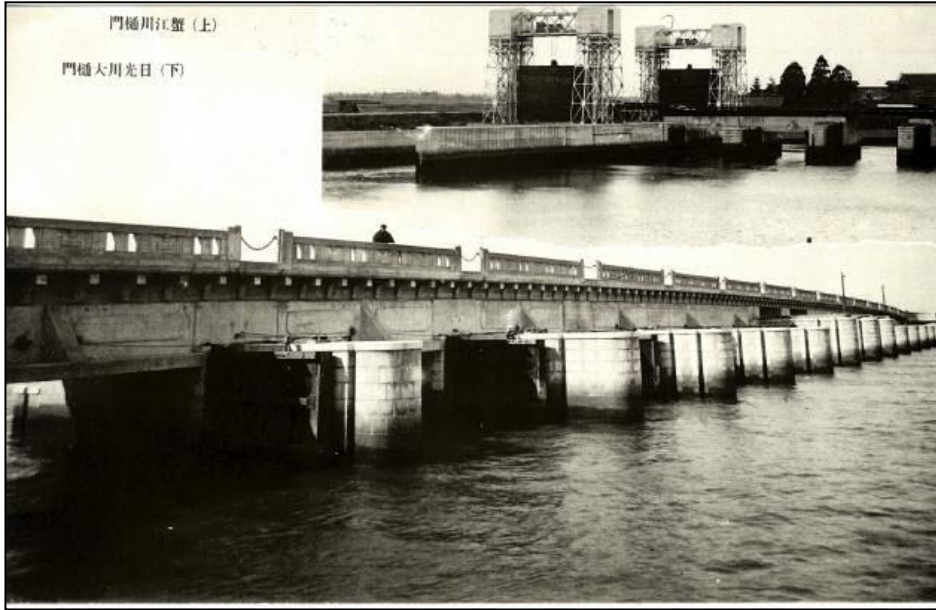


かにえほんまちどおり かにええき  
 JR関西線・蟹江駅とベンチ (右上)

今) JR関西線・蟹江駅は令和3年1月にリニューアルされました。エレベーターや  
 駅の南北を結ぶ自由通路も整備され、毎日多くの人々が利用しています。また、む  
 かしの駅舎で使われていた木材がベンチとして再利用されています。

かにえほんまちどおり  
 多くの人でにぎわった蟹江本町通は、今ではお店も少なくなりました。お店の  
 名前が記された街灯や丸い郵便ポストに、商店街の面影が残ります。

かにえがわひもん につこうがわおおひもん  
 ③ 蟹江川樋門 (上) と日光川大樋門 (下)



かにえがわひもん ふね  
 蟹江川樋門と船

昔) たくさんの川や水路<sup>すいろ</sup>がある蟹江町では、むかしは船によって人やモノを運んでいました。その一方で、台風<sup>たいふう</sup>や洪水<sup>こうずい</sup>の被害<sup>ひがい</sup>を受けることもたくさんありました。昭和5年(1930年)、日光川に橋と樋門<sup>ひもん</sup>(川の水が逆<sup>ぎゃく</sup>流<sup>りゅう</sup>することを防ぐ門)が一体化した大樋門<sup>おおひもん</sup>が作られました。当時<sup>とうじ</sup>としては珍<sup>めづら</sup>しいコンクリート製<sup>せい</sup>の立派<sup>りっぱ</sup>な橋で、動物<sup>どうぶつ</sup>の象<sup>ぞう</sup>が橋を支えるイメージで作られたこともあり、「象橋<sup>ぞうはし</sup>」とも呼ばれました。場所は現在の東海<sup>とうかい</sup>通<sup>どおり</sup>の日光大橋<sup>にっこうおおはし</sup>のあたりになります。蟹江川にも、近鉄<sup>きんてつ</sup>名古屋線<sup>なごやしん</sup>と国道1号線<sup>こくどういちごうしん</sup>の間に、樋門<sup>ひもん</sup>と閘門<sup>こうもん</sup>(舟が通るための水路<sup>すいろ</sup>)が作られました。



にっこうがわおおひもん ぞうはし  
 日光川大樋門 (象橋) のかざり



かにえがわひもん こうもんあと  
 蟹江川樋門・閘門跡

今) 日光川大樋門<sup>にっこうがわおおひもん</sup>はなくなりましたが、橋のかざりが蟹江町産業文化会館<sup>かにえちやうさんぎやうぶんかいかん</sup>の入口に展示されています。こうしてみると、たしかに「象<sup>ぞう</sup>」に似ていますね。蟹江川<sup>ひもん</sup>の樋門<sup>ひもん</sup>と閘門<sup>こうもん</sup>もなくなりましたが、よくみるとその跡<sup>あと</sup>を見つけることができます。

かにえちようぎよぎようくみあい  
④ 蟹江町漁業組合



昔) むかしの蟹江町では漁業が盛んで、町内の舟入地区には漁業組合もありました。この絵はがきは、朝の魚市場を写したものです。たくさんの漁船や人だかりからも、活気が伝わってきます。このころの蟹江川ではウナギやシジミ、伊勢湾ではエビやアナゴ、スズキなどがたくさんとれました。



ぎよぎようくみあい ばしよ  
漁業組合のあった場所



かにえぎよぎようきようどうくみあいきねんひ  
蟹江漁業協同組合記念碑

今) 昭和34年(1959年)の伊勢湾台風の後、名古屋港に高潮防波堤(波から港を守る設備)が作られると、魚をとることがむずかしくなり、昭和37年(1962年)に蟹江町の漁業組合は解散することになりました。かつて漁業組合があった場所には、記念碑がたてられています。